



館種を超えた情報リテラシー教育の可能性 大学図書館の実践から： お茶大の高大接続を中心に

2016年3月13日(日)

第20回図書館利用教育実践セミナー

お茶の水女子大学 図書・情報課長
森 いづみ
mori.izumi@ocha.ac.jp

自己紹介:これまでやってきた仕事

		受入	目録	電子化OA	参考	閲覧	ILL	教育	広報
東大総図 平成3年～	3カ月								
東大駒図 平成3年～	4年 9ヶ月	外国 雑誌							
東大総図 平成8年～	3年				参考			リテラ シー	冊子
東大基盤 センター 平成11年～	1年							リテラ シー	
三重大図 平成12年～	7年		目録	IR	参考		ILL	リテラ シー	Web 冊子
国立情報 学研究所 平成19年～	6年	REO CLOCKSS	CAT	SPARC IR CiNii			ILL	研修	Web 冊子
お茶大図 平成25年～	3年 目								



情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 参考調査(レファレンス)@東大総合図書館
- インターネット黎明の頃: 検索手段としては未成熟。
- レファレンス・ブック主体: 全てを知っている必要はないが、ある事項を調べるための手段は知っていなくてはならない。
- 利用者サービス: ある事項・事実を調べて答えるだけでなく、どのようにすれば自分で調べられるようになるのかを教えることも大事。

→利用者教育から情報リテラシーの時代へ

学術審議会. “大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議)”. 文部科学省. 1996

JLA「図書館利用教育ガイドライン」1998

→北米の大学図書館を視察



情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 情報リテラシー@東大情報基盤センター
- 情報リテラシーは単にOPACの使い方を教えるだけではなく課題解決能力を身に付けてもらうこと。
- 「頑張れば頑張るほど、いらなくなる存在？」
- まず親しんでもらう。ポップな案内・キャラクターの作成

目からウロコが落ちる日々
視点を変える・発想を変える
疑ってみる・考え抜く

情報リテラシー関連(三重大時代)

- 情報リテラシー@三重大学
 - 初年次教育／教育の適時性
 - 1学年3000人→1学年1500人の世界
 - 頑張れば1年生全員に情報リテラシー教育ができる
 - 授業やゼミなどで年間200回以上の講習会
 - 医学／看護学の学生にはEBM／EBNをキーワードに
 - 大学を取り巻く環境の変化
 - E-learning のはしり(全学でMoodleの活用が始まった)
 - ラーニングコモンズ前夜(Lib-Frontier, Web-Frontier)
 - 高校の「情報」科目の必修化
 - インターネットの隆盛
 - Web2.0 →「ネットがあれば図書館はいらない」論
 - ますます「情報リテラシー」は重要に

今やっている仕事

- 国立情報学研究所を経て…

図書・情報課長@お茶の水女子大学

足場を固めつつ
打って出る

- 管理業務

- 課の皆さんが健康で楽しく仕事ができる環境づくり
- 大学内や大学の外の動向にアンテナをはって、中期的・長期的なビジョンを持ち、情報共有
- 強みを活かし、新しい事業にチャレンジする

- 図書館関連

- トピックス：図書館増築、新フンボルト入試(図書館入試)

- 教育学習支援検討特別委員会

- 高等教育のための情報リテラシー基準(2015年版)

- その他、全学情報基盤の整備・運用、歴史資料館関係



大学教育における図書館の役割

- 従来からやってきたこと(学習・教育支援として)
 - 教育内容に関連した蔵書・コンテンツの整備／提供<情報>
 - 授業外の自習場所の提供<空間>
 - レファレンスサービスや、利用者教育の延長としての情報リテラシー教育<人>
- 新たに求められていること
 - <情報・空間・人>という要素は同じ
 - その中身が変わってきた
 - どのように変わってきたのか？

新たに求められていることは？

- 大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー(平成22年12月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- 学習支援及び教育活動への直接の関与
- キーワード:
 - ー ラーニングコモンズ: 複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」
 - ー 図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援。教員や図書館職員だけではなく、大学院生や学部3、4年生などが自身の経験などに基づき下級生を指導する体制を組織化

新たに求められていることは？

- 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について
(審議まとめ)(平成25年8月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- キーワード:

- 学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の三要素:

コンテンツ、学習空間、人的支援が改めて定義された

- アクティブ・ラーニング(能動的学修)

「教育振興基本計画」(平成25年6月閣議決定)

学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換

「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」

という文言が盛り込まれた

図書館に
追い風が吹
いている



新たに求められていることは？

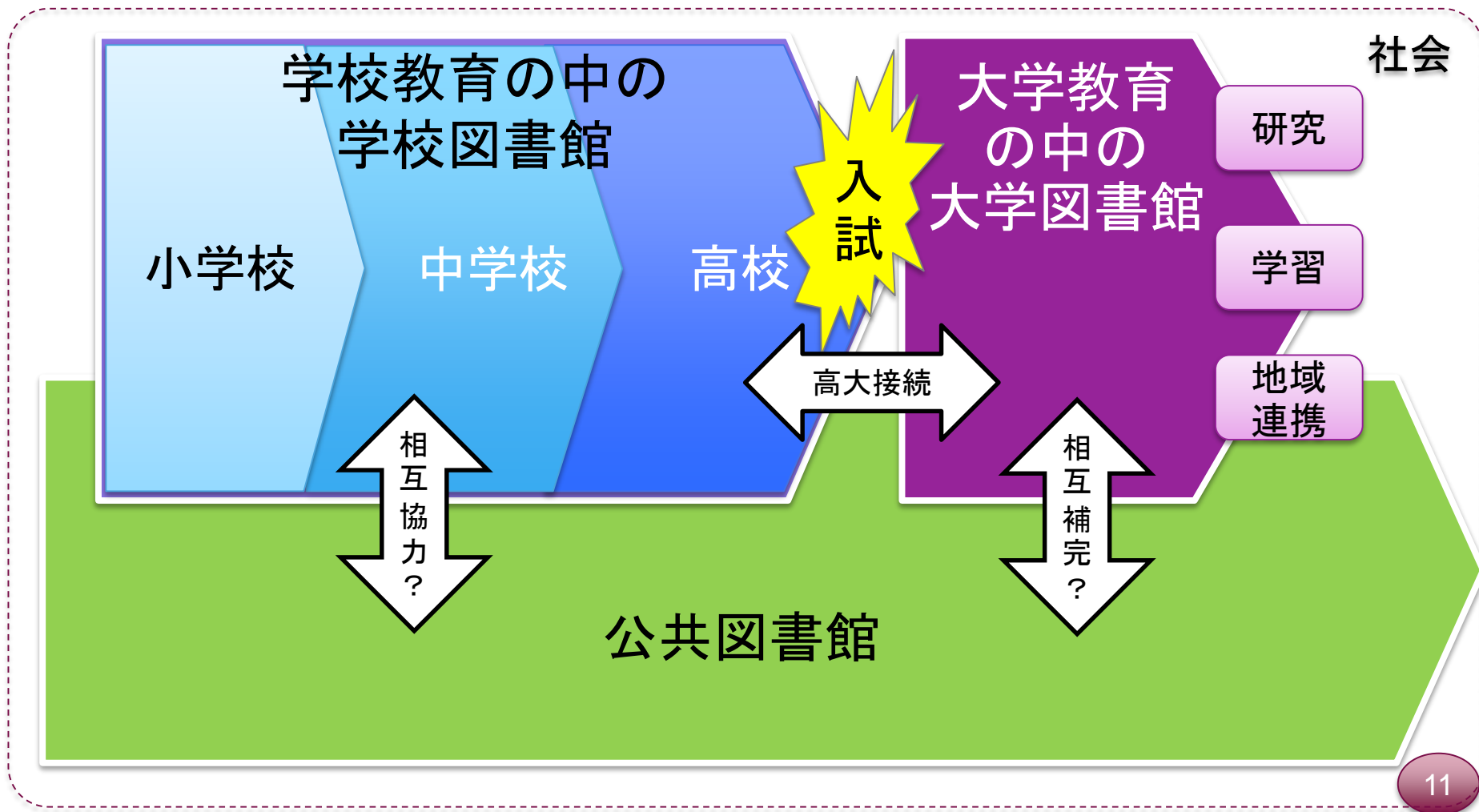
「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた
高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的
改革について

～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」

はじめに — 高大接続改革が目指す未来の姿

これからの時代に社会に出て、国の内外で仕事をし、人生を築いていく、今の子供たちやこれから生まれてくる子供たちが、十分な知識と技能を身に付け、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性を持って多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにすること。

一人一人のライフステージで 情報リテラシーを身につけられる場は？ (ディスカッションのためのイメージ図)





お茶大の従来からの高大接続

● 狭義：

- 附属高校→お茶大への入学
- 毎年数名。その後の成績や進路などを見守る

● 広義：

- 附属校生が大学の講義の受講
- 附属校生の図書館の利用（共通のICカード）
 - 1年生の授業で、図書館の利用ガイダンス（講師：大学図書館員）、図書館内ツアー（LISAの学生による）を実施
 - 附属校のパソコンから大学が契約する電子書籍の利用可
- 附属校生の語学学習設備の利用（図書館内含む）
 - OPAC専用,語学学習以外のパソコンの利用は不可

新フンボルト入試とは

- 時期：2017年度入学者を選抜する入試から、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」を開始
- 改革の目的：潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜→入試改革の先取り
- 定員：現AO入試の2倍の20名
- 「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」した、ヴィルヘルム・フォン・フンボルト（ベルリン大学創設者）に因んで命名
- 一次選考を兼ねる文理共通のプレミナールと、二次選考（文系「図書館入試」、理系「実験室入試」）の二段構え
- 単に知識の多寡を問うのではなく、「課題を探求・発見」し、「必要な資料やデータを活用」し、「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

平成28年度新フンボルト入試パンフレット

- プレゼミナールでAO受験者に大学の授業をじかに体験してもらい(受講を必須とします)、そこでのミニレポートや他の提出書類を評価して一次選考を行います。
- 二次選考では、文系は本学附属図書館を舞台に自在に文献や資料を駆使しつつ自分の論をじっくり練り上げ、またグループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力、独創性などを評価します(図書館入試)。
- 理系は各学科の専門性に即した実験や実験演示、データの分析等の課題を課したり、高校での学びを活かした課題研究発表などを行ってもらい、探求する力をみます(実験室入試)。
- その成果やプロセスを評価することで、いわゆるペーパーテストで測れないみなさんのもつ潜在的な力(ポテンシャル)を丁寧に見極めたいと考えています。単なる知識量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを問う入試です。
- この入試を通して、基礎学力をしっかりと身につけたうえで広く深くものごとを探求することのできる人、入学してからの学修で、さらには社会に出てから、あるいは大学院に進んで研究を続けていくなかで、ますますその才能を伸ばしていけるような、豊かな可能性をもっている人を迎え入れたいと考えています。
- この入試のための特段の準備はいりません。今高校で学びながら育てている力をそのままこの入試にぶつけてみてください。

新フンボルト入試(概念図)

選考方法

プレゼミナール

- ◆A0受験生のみならず、高校2年生やA0入試を受験しない3年生、高校教員を受講対象者とする
- ◆当日授業の受講後に簡単なミニレポートを作成する



一次選考

- ◆プレゼミナールで作成したレポートや志望理由書、活動報告書、外国語試験成績等を総合的に評価し一次選考を行う
- ◆生物学科は自主課題研究ポスター（A4判に縮小印刷）の提出を必須とする



二次選考

文系「図書館入試」

- ◆文教育学部（全ての受入学科）、生活科学部人間生活学科
- 1日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- 2日目：グループ討論、面接



理系「実験室入試」

- ◆理学部数学科、物理学科、化学科、情報科学科
- 思考力や探究力等をみる専門性のある試験課題を課す
- 例：実験、実験演示や実験データをもとにして考察する/黒板などを使って考え方を説明する



- ◆理学部生物学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科
- 自主研究課題のポスター発表を課す（自主課題研究のポスター発表を中心とした、これまでの高校での取組を評価する試験）



平成28年度

入試パンフレットより

http://www.ocha.ac.jp/news/h280126/h280126_2.pdf

● プレゼミナール



● 一次選考



● 二次選考

文系「図書館入試」

- 1日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- 2日目：グループ討論、面接



平成27年度プレゼミナール

- 2015年8月「新フンボルト入試」の体験版としてプレゼミナールを実施
- その中の一つのメニューとして、「図書館情報検索演習」を実施（「図書館入試」の模擬体験／実際の入試方法ではない）
- 「図書館情報検索演習」のプロセス
 - 1 「課題の提示」
 - 2 「情報探索レクチャー(図1)」
 - 3 「レポート作成(情報探索→執筆)(図2,3)」
 - 4 「グループディスカッション(図4)」

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について



図1 情報探索レクチャー



図2 レポート作成（情報探索）



図3 レポート作成（執筆）



図4 グループディスカッション



平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

普遍性のある内容
にする必要がある

● 重要なコンセプト:

- 「受験の有無、合否に関わらず、参加者にお土産を持ち帰ってほしい」 (by入試推進室長)
- 「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
→いかに実現するか？

● 実現方策:3つの方針

1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
2. 人的なサポート体制を整えること
3. 場所は、図書館のラーニング commons のパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

- 図書館スタッフが担当したこと:
 - 各プロセスに最適な環境の整備
 - 「情報探索レクチャー」
 - 「レポート作成(情報探索→執筆)」のサポート
- 関係部署(入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター)と連携し、方針や実施内容、役割分担を検討
- 共通理解の一助として、国立大学図書館協会が2015年6月に公表した「高等教育のための情報リテラシー基準」も活用



新フンボルト入試へのかかわり

「図書館入試」3つの背景

- 「図書館入試」を思いついてもらったのはどうして？
- 「教職協働」「教員との信頼関係の構築が大切」とはよく言うけれど？
 1. 2007年にラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた
 2. 情報リテラシー教育に積極的に関与し、初年次教育の必修授業やクラス単位のオーダーメイド講習会を実施してきた
 3. 図書館内で行うTA (Teaching Assistant) 相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA (Learning Adviser) を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA (Library Academic Learning Adviser) にリニューアルした

「図書館入試」3つの背景

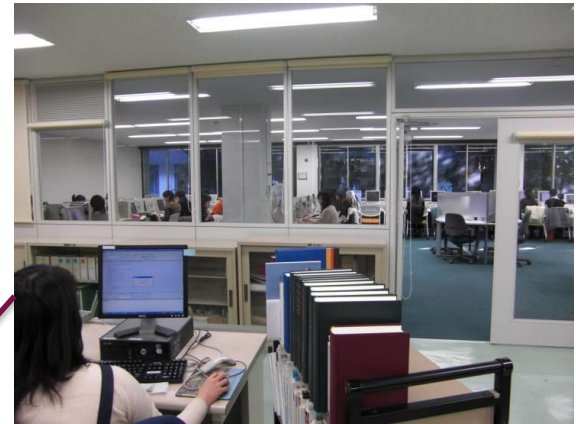
1. 学びの場づくり

～共に学び、共に成長する場～

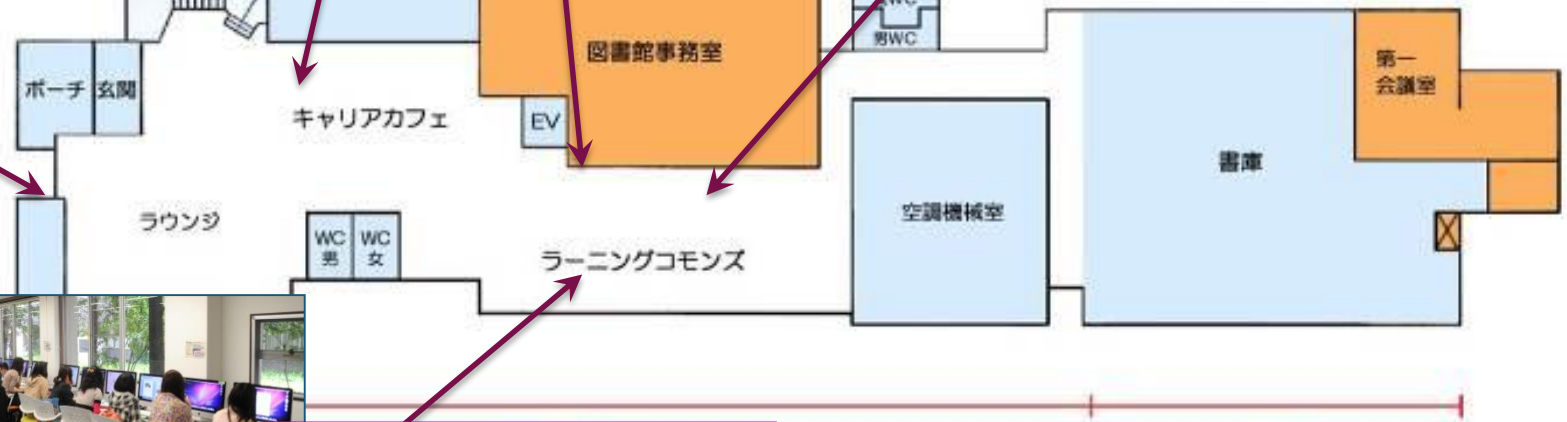
【2008年3月時点】



学生のスペースと
職員のスペースは
ガラスの間仕切り。
お互いが良く見える



図書館
の理念



ラーニング・commons、
キャリアカフェを設置



ラーニングコモンズいろいろ

入口付近に
スタンドPC



講習会にも
使える
スペース



お互いに顔を合わせない
集中してレポート作成



キャリアカフェの使われ方



イベントにも使える
学生主導の
「マーケティング講座」
テーマ:新しい商品開発

普段はパソコンを活用した
グループ学習などに利用され
ている

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

● 第一期(2007～2008)

- ・サービス担当常勤職員2名で細々と「論文検索講習会」を実施。
→ テーマは「効率的な文献の探し方」(DBの利用を伸ばす目的も)

● 第二期(2009～2012)

- ・課内プロジェクトグループとしてリテラシー教育に取り組むことに。
- ・サービス担当常勤だけではなく、非常勤さんや他の担当もメンバーに加わり、「図書館を使いこなそう!」と名称も変更。
→ DBの使い方だけではなく、図書館全体を学びに活かして欲しいという願いを込めた。
→ メンバーが増えたことで内容も充実。
- ・並行して、教員の依頼を受けて「授業内ガイダンス」を開始。
→ 名称を「オーダーメイド講習会」に変更。

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

● 第三期(2012～2014)

- ・「オーダーメイド講習会」依頼数が増加。リピーターも多数。
- ・教員から、初年次の必修授業にした方が良いとの提案が！
→ その提案通りとはいかなかったが、1年生必修の情報処理関係の必修授業に組み込んで貰えることに！1コマまたは半コマで実施。
- ・オーダーメイド講習会の人気とは裏腹に、図書館主催の講習会の参加人数が減少... → 人気のRefWorks講習会のみ開催することに。

● 第四期(2015～)

- ・2017年度入学者より、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」として、文系に「図書館入試」を実施することに決定。
- ・2015年8月に行われたプレゼミナールの「図書館情報探索演習」に全面協力。1年生向け講習会をアレンジした情報検索レクチャーを担当。

第三期あたりからの担当者の胸の内

もっとできることがありそう、でもどこまでできるのだろうか？

検索メインの講習会だったら自信を持って実施できる！

大学での学びに踏み込みたいけれど、先生はそこまで望んでいない...？

本当にこの内容で良い？

先生に聞いてみればいいのだけれど、どうやって話を持っていこう

そもそも自分たちがやっていることを見直したいけどちょっと怖い...c

これまでの内容を大幅に変えるのも大変...

楽しく見直すチャンス到来！

「高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)」への意見を出すために、体系表を使って1年生向け講習会テキストを見直すとともに、ドラフトの評価もしてみよう！

「基準」なんて
作って意味が
あるの？

- ・2014年8月7日(木) 10:00～11:30
- ・リテラシー教育グループ前期活動レビューの会
- ・リテラシー教育G 6人＋研修で来ていた東京都公立学校教員2名
- ・グループワーク形式

ポジティブな使い方が
できれば意味はある！

高等教育のための情報リテラシー基準とは？

- 情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。
- 高等教育の場で能動的学習(アクティブ・ラーニング)を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。
- アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。

学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを6つに整理

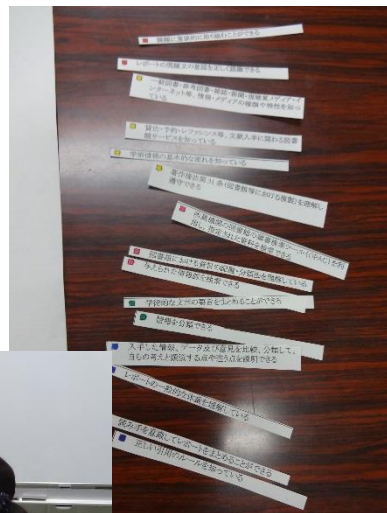
1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

「情報リテラシーを身に付けた」人の行動を基準として示す
(更なる具体化や、機関に応じたカスタマイズが必要)

高等教育のための情報リテラシー基準活用体系表

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	応用： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成・発表ができる	発展： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる
<p>1. 課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 (構成要素) 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。</p>	<p>□ 課題の意図を正しく理解できる。</p>	<p>□ 課題に沿ったテーマを設定できる。 □ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる。</p>	<p>□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる。 □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。</p>
<p>2. 情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会的倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 (構成要素) 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会的倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。</p>	<p>□ 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 □ 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 □ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 □ 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。</p>	<p>□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 □ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 □ ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認することができる。 □ 各種施設（博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等）の特徴を説明できる。</p>	<p>□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 □ 信頼性の高い情報を選択できる。 □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる。</p>
<p>3. 情報を入力する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。 (構成要素) 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報を取捨選択する。</p>	<p>□ 所属機関の図書館の蔵書検索ツール（OPAC）を利用し、指定された資料を検索できる。 □ 図書館における資料の配置・分類法を説明できる。 □ 与えられた情報源を検索できる。 □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。</p>	<p>□ 課題に応じてメディア（図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源）を選択し、情報を収集できる。 □ 文献検索の検索語（同意語・上位語・下位語）を工夫できる。 □ ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。 □ データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。 □ 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。 □ 情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。</p>	<p>□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。 □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。</p>
<p>4. 情報を分析・評価し、整理・管理する 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する。 (構成要素) 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性、真正性などの点から批判的に分析・評価する。 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する。</p>	<p>□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。</p>	<p>□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる。 □ 資料リストを作成し、管理できる。</p>	<p>□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。</p>
<p>5. 情報を批判的に検討し知識を再構造化する 行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する。 (構成要素) 5.1 情報を自らの知識と比較参照し、批判的に検討する。 5.2 新たな情報を自らの知識体系に組み込む。</p>	<p>□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる。</p>	<p>□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる。</p>	<p>□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる。 □ 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる。</p>
<p>6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する。 行動指標⑥ 社会的倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する。 (構成要素) 6.1 情報を利用する上で必要な法的・社会的倫理的な知識を持つ。 6.2 情報を発信するために必要なICT・コミュニケーションに関するスキルを持つ。 6.3 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい表現形式を選択する。 6.4 情報の典拠を明示し、適切に引用を行い、自分の主張を論理的に発信する。 6.5 最終的な成果物を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する。</p>	<p>□ レポートの一般的な体裁を説明できる。 □ 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。 □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる。 □ 引用と剽窃の違いを説明できる。 □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる。 □ 提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる。</p>	<p>□ 事実に・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる。 □ レポートや発表資料において図表・音声・画像を活用できる。 □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる。</p>	<p>□ 情報を意思決定・問題解決・実験・調査に活用できる。 □ 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性のモニタリングができる。 □ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる。 □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる。 □ 自分が発信した情報・論文を評価できる。</p>

「基準」を使って、テキストの見直し



①テキスト(ppt)を1枚ずつA3にプリント

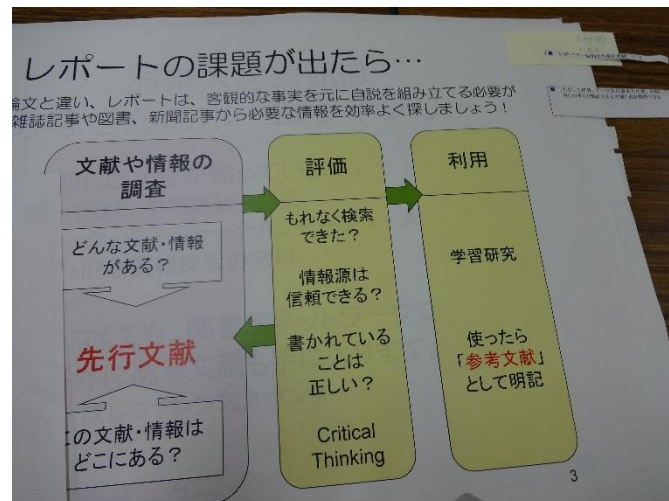
②活用表の「初級」を切り取り、項目別に色分けしたものを数セット用意。

③どのスライドがどの項目に合致するか意見交換。合致する項目をテキストに貼る。

④すべてのページが終了したら、全体を見直してどの部分ができていたか、足りない分はどこかを検討。



実習に来ていた高校の先生も参加！



楽しく見直すチャンス到来！

見直しの結果

もやもやが
少し解消♪

- ・講習会でカバーできている内容を確認できた！
- ・足りない箇所も分かった。そんなに手間をかけずに修正できそう！
- ・スライドが意図する効果(目的)が明確になったので、説明に説得力が増しそう！
- ・複数人でレビューしたことで、より客観的に評価できた！

改善へのモチベーションUP & これで良かったんだという自信

2015年度の新入生向け講習会のテキストに反映

※著作権に関するスライドを追加し、「引用」についての説明を強化

「図書館入試」3つの背景

3. ラーニングコモンズでの人的支援

- ラーニングコモンズを早い時期(2007年)に設置
 - ラーニングアドバイザー(LA)が常駐
 - 図書館のカフェでキャリア教育関連のイベントや学生の自主企画イベントが目白押し
- ラーニングコモンズといえばお茶大
→改修や身近な工夫で実現しているから参考になりそう

実際良く使
われている

ハッピー
オーラ♪

悩んでいたこと-1

空間／人的支援に関すること

● 経費（LAの人的費／PC導入・保守費）

- 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-」
→平成25年度で終了

● 規模

- いつも混んでいる、席と席が近い
- イベントをしていると自習スペースが足りなくなる

● 中身

- LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
→それって「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
→いわゆる「アクティブ・ラーニング」の場になっているの？
- 情報リテラシー教育支援のあり方は？

悩んでいたこと-2

蔵書・コンテンツに関すること

● 蔵書の配置

- 全学蔵書68万冊の半分が24か所の学科等図書室＋研究室に分散
 - ✓ キャンパス・マスタープラン(平成25年6月)で指摘
 - ✓ 平成24年度「外部評価報告書」(平成25年8月)で指摘
 - ✓ 学生からも、研究室配置の図書が使いづらいとの声

● コンテンツ経費

- 円安影響／間接経費縮減傾向
 - ✓ 電子コンテンツ経費確保に課題

● 学生用図書／コンテンツのあり方

- 選書の在り方(何を)、提供の在り方(どのような形で)
- シラバスとの連携／教育との連携

新しい展開

- 新図書館構想に取り組むことに(平成25年6月)
 - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
 - サブグループ(空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成)を設置
 - メンバーは、教員4名、職員4名
- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに(11月)
 - 寄付事業
 - 一部局から全学へ



ピンチは
チャンス!

新しい展開

- 新図書館構想WG報告書を提出（平成26年2月）

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして：
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱（ビジョン）

- (1) 知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります
- (2) 創造的学びの場としての空間機能を提供します
- (3) 人類智が交差する場として人と人とのつながりを
支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

アクティブ・ラーニングって？

- 学修のプロセスは一方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない





学内学習支援リサーチまとめ

- 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携は・・・？
- 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている

→ハード面だけではなくソフト面で展開

→ニッチなニーズの掘り起し

→個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割

★大学が目指す方向性に沿って

学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること

★アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設

LALA (Library Academic Learning Advisor) 広報資料より

LALA(ララ)とは？

- Library Academic Learning Adviserの略称。
- 教員、学外の専門家、図書館員からアカデミックスキルズに関するトレーニングを受けた大学院生です。
(トレーニングプログラム内容:図書館情報探索講習会、論文の技法、ライティング支援)
- 2014年度メンバーの専攻(全10名)
比較社会専攻 :5名(後期:5名,前期:0名)
理学専攻 :2名(後期:1名,前期:1名)
ジェンダー専攻 :3名(後期:2名,前期:1名)

LALAの役割は？

- 学生が自ら考え自ら調べることを支援します。
- より専門的な内容の相談については、教員や他の窓口へと適切にナビゲートし、学生と教員の橋渡しをします。



LALAデスクとは？

学生が大学院生のサポートを受けられる相談デスクです。

- 文献の探し方、レポートの書き方についての相談を受け付けています。
- PC、プリンターの質問にも対応。
- サービス時間(土日祝日を除く)
授業期間中⇒9:00～18:00、長期休暇中⇒10:00～16:00



ラーニング・コモンズの一角にあります

LALAデスク 相談風景

文献の探し方、
レポート作成など

ぜひ、学生に
利用を
おすすめください！

授業外の学習時間が
さらに充実！

学生の声



困ったときに
優しく教えていただき、
感謝しています。
また活用させていただきたい
と思いました。

LALAの声



トレーニングプログラムや
学生との対話が
自分の学びにもなっています。
大学の専門分野で学んだ
ことなどを生かしたいです。
LALA活動が
本格的なアカデミック的な支援に
なればよいと思っています。

参考：LALA (Library Academic Learning Advisor)

平成26年度実績と平成27年度体制

- 体制：LALAデスク1コマ1名

比較社会専攻：5名(後期:5名、前期:0名)

理学専攻：3名(後期:1名、前期:2名)

ジェンダー専攻：3名(後期:2名、前期:1名)

計：11名(応募13名)※

- 授業期間中のコマ

	①9:00～12:00	②12:00～15:00	③15:00～18:00
月	理学/後期	比較社会/後期	ジェ/前期
火	比較社会/後期	理学/前期	比較社会/後期
水	ジェ/後期	理学/前期	比較社会/後期
木	比較社会/後期	ジェ/後期	理学/後期
金	ジェ/後期	比較社会/後期	理学/前期

- 授業期間外のコマ

	④10:00～13:00	⑤13:00～16:00
月	ジェ/後期	比較社会/後期
火	比較社会/後期	理学/前期
水	比較社会/後期	ジェ/前期
木	ジェ/後期	理学/後期
金	理学/前期	ジェ/後期

※)1名留学したため、後期から10名体制

- LALAデスク開設日/質問件数(忘れ物対応等を除く)

授業期間中：162日、2,831件 1日平均17.5件

授業期間外：28日、96件 1日平均 3.4件

- 時間帯ごとの質問の割合

授業期間中：①28.9% ②37.7% ③33.5%

授業期間外：④50% ⑤50%

→いずれの時間帯にも同程度の質問が来ているが、授業期間外に関しては絶対数が少なく、12:00～15:00の間に質問が集中

- 平成25年度との比較(授業期間中1日3時間減)

質問数：月平均で5割増し

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):1,251件(179件/月)

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):2,831件(283件/月)

アカデミックスキルズ※)に関する質問数：月平均で倍増

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):35件

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):98件

※)レポート/論文の書き方、授業の課題、情報検索、図書館案内

- 平成27年度：大学院生TA 7名(継続3+新規4)、RF 1名でローテーション

2015年
テキスト
(抜粋)



2015年プレゼミナール
図書館情報検索演習
「大学図書館を使いこなそう！」

2015.8.25(火)

お茶の水女子大学附属図書館



附属図書館学生アシスタント
キャラクター：しほりちゃん





平成27年度プレゼミナール アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加(回収数:81名)

1. 「情報探索レクチャー」の理解度:「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度:「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」:「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」0%「有益でなかった」0%
→これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる
4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書＋Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書(紙媒体)のみ」
→学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた



高校の司書さんとの意見交換

- アクティブラーニングに図書館活用の視点を取り入れることで、生徒の学ぶ力や考える力をより膨らませることができます。高大接続が言われていますが、お茶の水が模索している図書館入試のような入試改革や、高校から大学への連携を意識した情報リテラシー教育が、とりわけ高校の授業改革に大切な役割を果たしていけるとよいと思いました。
- 合否にかかわらず、図書館の資料を使って自分の考えを展開する、そのノウハウを身につけること。その知識生産型の学びを支える図書館。このことは当然高校図書館にもいえることです。高校でどのように図書館やその資料使ってきたかが問われていると感じました。
- 改めて、高校で情報処理演習にしっかり取り組まないといけないと感じました。これは図書館だけの問題ではなく、高校現場全体の意識改革が必要だと思いました。

高校の司書さんとの意見交換

- パソコンスキルではなく資料を活用する力を含めた総合力を問いたいというお話を伺って今後の大学入試では、調べた内容をまとめたり自分の考えを文章にして発表する力を問われることが増えていくのだろうと感じました。自校で大学を受ける生徒は多くはありませんが、基礎学力にプラスしてそういった力が身につくよう、受験生を送る側の司書としてできる支援を考えていかなければと思います。
- 入学試験限定ではない、一生学ぶための力を育てる「学び」でありたいものです。私が住んでいる町では、学校に行けない生徒が、町立図書館の一室で補習を受けられるシステムがあります。高校生活への一つのドアとしての学校図書館を意識し直しました。
- デジタル化について、「フィールドワークに行っても図書館にアクセスできる」という発想は新鮮でした。通常の利用を考えるとデジタル化の進行は読書の世界を狭めるのではと危惧しがちですが、研究者にとっては有用ですね。「図書館をポケットにフィールドへ」

館種を超えた情報リテラシー教育の可能性 大学図書館の実践から： お茶大の高大接続を中心に

● 新たな取り組み

- SGH (Super Global Highschool) 2016年度2年次の授業「持続可能な社会の探求 I」開講前に、全1年生を対象とした情報探索レクチャーを実施 (2016年3月)
- これをきっかけに、高校図書室と大学図書館の連携が加速しそう！

高校での学びに密に連携した、実践的で豊かな学びのための試み→受験対策ではない


大学入試のあり方が変われば、高校教育は変わっていく？「課題解決型学習」を、SSHやSGHだけの特殊な試みにしてしまわない

館種を超えた情報リテラシー教育の可能性 大学図書館の実践から： お茶大の高大接続を中心に

自分がいる場所(図書館)の外側から発想する

- 「図書館が」何をすべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない

- 学生さんは、何を求めているんだろう？
- 教員は何を求めているんだろう？
- 大学は何を求めているんだろう？社会は？



ヒントは外
にある
答えは中
にある

- 地域でも、学校でも(?)

新しいことをしようとする人は結構孤独

いかに寄り添い、課題解決に導くためのリソースになれるか？

→あなたの周りに困っている人はいませんか？

→話せる「人」をつくることが、第一歩

→「館種を超えた情報リテラシー教育」は目的ではなく、
何かを成し遂げるための手段であるはず

参考情報

- 大学ニュース「2015年 新フンボルト入試プレゼミナール」
<http://www.ocha.ac.jp/event/20150713.html>
- 大学ニュース「お茶大発新型AO入試(新フンボルト入試)について」 <http://www.ocha.ac.jp/news/h280126.html>
- ブログ記事「この夏、お茶大が暑い！新フンボルト入試プレゼミナール2015開催」
<http://ochadailisa.blog32.fc2.com/blog-entry-1037.html>
- カレントアウェアネスE「お茶の水女子大学「図書館入試」実施に向けたプレゼミナール」<http://current.ndl.go.jp/e1717>
- 大学図書館における先進的な取り組みの実践例(Web版)「大学での学び方を学ぶ「図書館入試」の試み」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm
- 読売教育ネットワーク「入試改革で学びの「中核」に ――大学図書館の未来像」
<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/post-417.php>